

# 福島原子力発電所事故（東日本大震災）に関連する消防の対応について（第94報）

平成23年6月20日（月）7時00分  
消防庁災害対策本部

## 1 消防機関の活動

### (1) 緊急消防援助隊の規模（実派遣総数）

東京消防庁	72隊	370人
大阪市消防局	17隊	53人
横浜市消防局	9隊	67人
川崎市消防局	12隊	36人
名古屋市消防局	6隊	34人
京都市消防局	11隊	40人
神戸市消防局	7隊	55人

※これら7消防本部の活動の調整については、東京消防庁が担当。

新潟市消防局	1隊	4人
浜松市消防局	1隊	5人

### (2) 緊急消防援助隊及び地元消防本部等の活動状況

#### ① 発電所対応

- 原子力保安院からの要望を受けて、福島県原子力災害対策センターに双葉地方広域市町村圏組合消防本部が参画（3月12日）
- 原子力安全・保安院から施設を冷却するための装備を持った部隊を派遣してほしいとの要請があり、消防庁長官から、東京消防庁のハイパーレスキュー隊（海水放水能力毎分3,500ℓ2隊を含む）及び仙台市消防局の特殊装備部隊（海水放水能力毎分4,250ℓ1隊を含む）の緊急消防援助隊としての派遣を要請→出勤途上において原子力安全・保安院の要請取り消しにより、両消防本部に対する出勤要請を解除（3月12日）
- 官房長官指示により、消防庁から下記の消防本部に協力要請し、合計4台の消防ポンプ自動車を東京電力に貸与。
  - 郡山地方広域消防組合消防本部（2台） 3月13日20時45分到着
  - いわき市消防本部（1台） 3月14日0時45分到着
  - 須賀川地方広域消防本部（1台） 3月14日0時45分到着
- 官房長官指示により、消防庁から下記の消防本部に協力要請し、合計8台（総計12台）の消防ポンプ自動車を東京電力に貸与。
  - 米沢市消防本部（1台） 3月14日21時45分到着
  - 会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部（1台） 3月14日19時10分到着
  - 宇都宮市消防本部（2台） 3月14日21時50分到着
  - さいたま市消防局（2台） 3月15日1時15分到着
  - 新潟市消防局（2台） 3月14日23時45分到着
- 被災地での要救助者等のスクリーニングのため、消防庁から依頼し東京都より1万枚（3月14日受領、3月16日発送）、千葉市消防局より3千枚（3月15日受領、発送）のトリアージタグの提供を受け、それを福島県のDMA T事務局へ提供。そのうち1,000枚はJビレッジにおいて保管。（3月30日）
- 福島第一原子力発電所から4号機において火災が発生した旨の通報があり、双葉地方広域市町村圏組合消防本部から6隊21人が消火のため順次出動→自然鎮火した模様（3月16日）

- ・総理大臣から東京都知事に対し、福島第一原子力発電所への特殊車両等の派遣の要請があり、都知事がそれを受諾（3月17日夜）。それを受けて消防庁長官から、東京消防庁のハイパーレスキュー隊等の緊急消防援助隊としての派遣を要請（3月18日0時50分）。→東京消防庁から特殊災害対策車等30隊139人が出場（3月18日3時20分）→福島第一原子力発電所に到着（3月18日17時33分）
- ・総務大臣から大阪市長に対し、福島第一原子力発電所への特殊車両等の派遣の要請があり、大阪市長がそれを受諾（3月18日20時10分）。それを受けて消防庁長官から、大阪市消防局の特殊車両部隊の緊急消防援助隊としての派遣を要請（3月18日20時10分）。→遠距離対応送水システム及び消防車等17台53人が出場（3月19日17時24分）。→いわき市立総合体育館に全隊集結（3月20日10時50分）
- ・東京消防庁ハイパーレスキュー隊が福島第一原子力発電所3号機に対し放水実施（3月19日0時30分頃から約20分間、放水実績約60t）
- ・福島第一原子力発電所に対応中の部隊の交代要員として東京消防庁の14隊102人が常磐自動車道（下り）守谷サービスエリア駐車場に集結（3月19日8時20分）
- ・東京消防庁ハイパーレスキュー隊が福島第一原子力発電所3号機に対し2回目の放水実施（3月19日14時05分から3月20日3時40分：当初予定7時間のところ実績14時間、放水実績約2,430t）
- ・総務大臣から横浜市長に対し、福島第一原子力発電所への特殊車両等の派遣の要請があり、横浜市長がそれを受諾。それを受けて消防庁長官から、横浜市消防局の特殊車両部隊の緊急消防援助隊としての派遣を要請（3月19日15時30分）。
- ・総務大臣から川崎市長に対し、福島第一原子力発電所への特殊車両等の派遣の要請があり、川崎市長がそれを受諾。それを受けて消防庁長官から、川崎市消防局の特殊車両部隊の緊急消防援助隊としての派遣を要請（3月19日16時30分）。
  - ・福島第一原子力発電所での対応に伴う除染活動を支援するため、消防庁長官から、新潟市消防局及び浜松市消防局の大型除染システム部隊の緊急消防援助隊としての派遣を要請（3月20日16時00分）。
- ・東京消防庁ハイパーレスキュー隊が福島第一原子力発電所3号機に対し3回目の放水実施（3月20日21時30分から3月21日3時58分まで約6時間30分、放水実績約1,137t）
- ・緊急消防援助隊（東京消防庁及び大阪市消防局）が3号機への放水活動のため、発電所まで出動したが、2、3号機の発煙により活動中止（3月21日）。以降の福島第一原発での緊急消防援助隊の活動（除染を除く）の調整については東京消防庁が担当。
- ・浜松市消防局（1隊5人、3月21日20時00分）、新潟市消防局（1隊4人、3月22日4時00分）、横浜市消防局（9隊67人、3月22日8時00分）がそれぞれ出発。→浜松市消防局（3月22日6時55分）、新潟市消防局（3月22日8時38分）がそれぞれJビレッジ到着。横浜市消防局（3月22日12時40分）がJビレッジに到着。
- ・総務大臣から名古屋市長に対し、福島第一原子力発電所への特殊車両等の派遣の要請があり、名古屋市長がそれを受諾。それを受けて消防庁長官から、名古屋市消防局の特殊車両部隊の緊急消防援助隊としての派遣を要請（3月22日13時40分）。
- ・総務大臣から京都市長に対し、福島第一原子力発電所への特殊車両等の派遣の要請があり、京都市長がそれを受諾。それを受けて消防庁長官から、京都市消防局の特殊車両部隊の緊急消防援助隊としての派遣を要請（3月22日13時50分）。
- ・総務大臣から神戸市長に対し、福島第一原子力発電所への特殊車両等の派遣の要請があり、神戸市長がそれを受諾。それを受けて消防庁長官から、神戸市消防局の特殊車

両部隊の緊急消防援助隊としての派遣を要請（3月22日14時00分）。

- ・緊急消防援助隊（東京消防庁及び大阪市消防局）が福島第一原子力発電所3号機に対し4回目の放水実施（3月22日15時10分から3月22日16時00分：放水実績約150t）。
- ・浜松市消防局及び新潟市消防局が、大型除染システムの東京電力による設営作業を支援（3月22日11時00分）。→東京電力による除染設備、除染体制が整ったため業務を終了（3月23日17時10分時点）。
- ・東京消防庁から第三陣7隊32人が、いわき市立総合体育館に到着（3月22日13時10分）
- ・内閣官房の依頼により、消防庁から東京消防庁に協力要請し、消防ポンプ自動車1台を東京電力に貸与（3月22日20時27分）。
- ・緊急消防援助隊（横浜市消防局（東京消防庁が支援））が福島第一原子力発電所3号機に対する5回目の放水のためJビレッジを出発（3月23日15時15分）。→福島第一原子力発電所3号機から黒煙を確認したため作業中止（3月23日16時35分時点）
- ・川崎市消防局（12隊36人）が3月24日8時出発。→いわき市立総合体育館に到着（3月24日13時40分）
- ・緊急消防援助隊（川崎市消防局（東京消防庁が支援））が福島第一原子力発電所3号機に対し5回目の放水実施（3月25日13時28分から16時00分：放水実績約450t）（累計約4,227t）
- ・名古屋市消防局（6隊34人）が3月25日22時27分出発。→いわき市立総合体育館に到着（3月26日12時30分）
- ・東京消防庁から第四陣7隊33人（3月25日16時10分及び3月26日20時05分着の1隊4人を含む）が、いわき市立総合体育館に到着。
- ・京都市消防局（11隊40人）が3月27日9時40分出発。→いわき市立総合体育館に到着（3月28日13時30分）
- ・東京消防庁から第五陣5隊29人が、いわき市立総合体育館に到着（3月28日14時50分）
- ・神戸市消防局（7隊53人）が3月29日10時20分出発。→いわき市立総合体育館に到着（3月30日13時55分）
- ・東京消防庁から第六陣9隊35人が、いわき市立総合体育館に到着（3月31日14時10分）
- ・福島原発発電所事故対策統合本部との調整を踏まえ、いわき市に進出拠点を確保した上で、首都圏の大都市の消防本部がそれぞれの消防本部で待機し、即応体制を確保（4月2日～）
- ・福島第一原子力発電所1～4号機放水口サンプリング建屋1階（放射線モニタリング予備電源のバッテリー及び配線）において出火  
→東京電力職員が消火器により消火、通報（4月12日6時48分）  
→双葉地方広域市町村圏組合消防本部が鎮火確認（4月12日9時12分）
- ・福島第二原子力発電所1号機リアクター付属棟地下1階高圧電源設備室内照明パネルから出火（5月27日10時00分ころ）  
→東京電力職員が消火器により消火、通報（5月27日10時08分）  
→双葉地方広域市町村圏組合消防本部が鎮火確認（5月27日11時19分）

- ・福島第一原子力発電所の専用港内海面に、油膜（150m×30m）が浮いているのを東京電力職員が発見（5月31日8時00分ころ）。  
→東京電力及び海上保安庁によりオイルフェンス設置  
→双葉地方広域市町村圏組合消防本部が現場確認
- ・福島第二原子力発電所の3・4号機放水口付近に、油膜が浮いているのを東京電力職員が発見（6月8日18時10分ころ）。油の流出量は0.5m<sup>3</sup>と推定。  
→東京電力によりオイルフェンス設置  
→双葉地方広域市町村圏組合消防本部が現場確認

## ② 搬送対応

- ・福島第一原子力発電所1号機において爆発が発生、負傷者4人を東京電力が病院へ搬送（3月12日）
- ・福島第二原子力発電所3km圏内の住民を避難させるため双葉地方広域市町村圏組合消防本部が要援護者等の搬送支援を実施（3月12日）
- ・福島第一原子力発電所から10km圏内の病院の入院患者（自力避難困難者21人）と病院関係者の避難を滋賀県隊、岐阜県隊及び安達地方広域行政組合消防本部救急隊が自衛隊とともに実施（3月12日）
- ・3月14日11時01分頃、福島第一原子力発電所3号機において白煙が発生、双葉地方広域市町村圏組合消防本部の救急隊2隊及び救助隊1隊が出動し、負傷者6人を搬送（3月14日14時50分時点）
- ・福島県災害対策本部から屋内退避区域（20～30km）にある病院からの一部患者の搬送について緊急消防援助隊に支援要請。→緊急消防援助隊を福島県に派遣する消防本部のうち、静岡市消防局及び岐阜市消防本部に消防庁長官から屋内退避区域内での活動について協力要請（3月17日）
- ・福島第一原子力発電所から20～30km圏内又は周辺地域の病院・施設等からの搬送を地元消防機関及び緊急消防援助隊により実施（3月17日～、詳細は別紙1参照）
- ・3号機で放射線の暴露を受けた作業員3人のうち2人を、消防庁が派遣している山口芳裕医師（杏林大学救急医学教授）及び森村尚登医師（横浜市立大学救急医学教授）がJビレッジにて診察、除染指示。双葉地方広域市町村圏組合消防本部は、除染を行い、福島県立医科大学へ搬送（3月24日）（その後3号機で放射線の暴露を受けた作業員3人をワゴンタクシーにて独立行政法人放射線医学総合研究所（千葉県）へ搬送（同研究所医師同乗）（3月25日））
- ・福島県内屋内退避区域（福島第一原子力発電所から20～30km）からの自主避難支援のため、7県隊からなる75隊の救急搬送体制を、10都県からなる約100隊の体制へと強化（3月26日）
- ・福島県内の救急搬送体制（緊急消防援助隊 救急部隊 計107隊）（3月26日15時時点）群馬県8隊、栃木県6隊、埼玉県15隊、東京都10隊、千葉県10隊、神奈川県20隊、岐阜県6隊、静岡県14隊、滋賀県9隊、茨城県9隊
- ・福島第一原子力発電所から20～30km圏内の在宅（巡回）診療の実施に際し、緊急消防援助隊の救急救命士が、搬送が必要な場合の連絡調整員として各チームに1人同乗し、活動実施。必要に応じ、消防機関が搬送を実施（4月4日～、詳細は別紙2参照）
- ・警戒区域（福島第一原子力発電所から20km圏内）への一時立入に際し、双葉町から中継基地へ戻る途上バスが故障し、代車を待つ間に住民1人が気分不快となり、双葉地方広域市町村圏組合消防本部の救急隊が中継基地の救護所（医師待機）まで搬送（5月27日）
- ・4月7日以降の福島第一原子力発電所における作業に伴う救急搬送者は、合計13人（6月19日時点、詳細は別紙3参照）

- ・福島県災害対策本部との調整を踏まえ、緊急消防援助隊全体帰任。なお、福島原子力発電所事故に係る救急搬送については、周辺の県の消防機関による即応体制を確保（6月6日）

③ その他

- ・大熊町のホテルウィルでぼや火災が発生（3月31日14時59分覚知）。双葉広域市町村圏組合消防本部が出場。→鎮火（3月31日17時12分）→双葉広域市町村圏組合消防本部が火災原因調査を実施（4月1日13時00分～）

## 2 消防庁の対応

福島県関係の対応状況は以下のとおりである。

3月11日	16時30分	消防庁職員2人（出張中）を福島県に派遣 →21時15分福島県庁到着
3月12日	9時00分	政府調査団の一員として消防庁職員1人を福島県に派遣
3月13日		「救急搬送に伴う放射能汚染に係る情報提供等について（事務連絡）」を各都道府県に対して連絡
3月14日	1時00分	「東京電力の需給逼迫による計画停電の実施について（消防庁災害対策本部通知）」を東京電力管内の9都県及び管内消防本部に対して連絡
	3時00分	「東京電力株式会社による輪番停電に係る在宅医療機器使用患者の対応について」を厚生労働省の依頼に基づき、東京電力管内の9都県及び管内消防本部に対して連絡
	11時25分	「東京電力の需給逼迫による計画停電の実施に伴う防火対策の徹底について（事務連絡）」を東京電力管内の9都県及び管内消防本部に対して連絡
3月15日	14時00分	「東北電力の需給逼迫による計画停電の実施について（消防庁災害対策本部通知）」を東北電力管内の4県及び管内消防本部に対して連絡
		「東北電力株式会社による輪番停電に係る在宅医療機器使用患者の対応について」を厚生労働省の依頼に基づき、東北電力管内の4県及び管内消防本部に対して連絡
	23時50分	「東北電力の需給逼迫による計画停電の実施に伴う防火対策の徹底について（事務連絡）」を東北電力管内の4県及び管内消防本部に対して連絡
3月17日	7時00分	福島第一原子力発電所対応に係る連絡調整班を設置
3月18日～		福島第一原子力発電所対応のため消防庁職員1人を福島県へ派遣（3月18日～4月2日）
3月18日	18時00分	東京消防庁や消防庁が福島第一原子力発電所で活動する消防職員の健康チェックを行うため、救急専門医を交替で派遣（3月18日～4月1日）
3月20日	16時00分	消防庁災害対策本部に原発特命班を設置
3月23日	10時00分	消防庁が、消防職員の暴露放射線線量の推計を行うとともに専門的見地からのアドバイス等を行うため、診療放射線技師を派遣（3月23日～4月2日）
3月27日		消防庁長官がJビレッジ及びいわき市立総合体育館にて緊急消防援助隊等の状況を現地確認
4月1日		消防庁長官が宮城県及び福島県にて緊急消防援助隊等の状況を

を現地確認

- 4月 2日 有事即応のため、東京消防庁からヘリで活動隊員を早期投入し活動できるよう、いわき市消防本部へ消防車両等の管理を依頼
- 4月22日 消防庁から職員を派遣し、双葉地方広域市町村圏組合消防本部と郡山地方広域消防組合消防本部との業務調整及び現地確認を実施
- 4月27日 消防庁から職員を派遣し、相馬地方広域消防本部、福島市消防本部、福島県災害対策本部及び原子力災害現地対策本部との業務調整及び現地確認を実施

<参考>

1 福島第一原子力発電所の状況

	1号機 ※INES 評価レベル 7	2号機 ※INES 評価レベル 7	3号機 ※INES 評価レベル 7
主要事象等	《3月》	《3月》	《3月》
	11日 15:42 10条通報(全交流電源喪失)	11日 15:42 10条通報(全交流電源喪失)	11日 15:42 10条通報(全交流電源喪失)
	11日 16:36 15条事象発生(非常用炉心冷却装置注水不能)	11日 16:36 15条事象発生(非常用炉心冷却装置注水不能)	13日 05:10 15条事象発生(非常用炉心冷却装置注水不能)
	12日 01:20 15条事象発生(格納容器圧力異常上昇)	13日 11:00 ベント開始	13日 08:41 ベント開始
	12日 10:17 ベント開始	14日 13:25 15条事象発生(原子炉冷却機能喪失)	13日 13:12 原子炉への海水注入開始
	12日 15:36 水素爆発	14日 16:34 原子炉への海水注入開始	14日 05:20 ベント開始
	12日 20:20 原子炉への海水注入開始	14日 22:50 15条事象発生(格納容器圧力異常上昇)	14日 07:44 15条事象発生(格納容器圧力異常上昇)
	22日 11:20 圧力容器温度上昇	15日 00:02 ベント開始	14日 11:01 水素爆発
	24日 11:30 中央制御室の照明が点灯	15日 06:10 圧力抑制室付近で異音発生	17日 09:48 使用済燃料プールへ注水開始
	25日 15:37 原子炉への淡水注水開始	15日 06:20頃 圧力抑制室損傷の疑い	22日 22:46 中央制御室の照明が点灯
	27日 07:30 タービン建屋の溜まり水を復水器へ移送	15日 08:25 白煙発生	25日 18:02 原子炉への淡水注水開始
	31日 09:20 トレンチ内滞留水の排水	20日 15:05 使用済燃料プールへ注水開始	28日 17:40 復水貯蔵タンクの水をサージタンクへ移送
	31日 12:00 復水貯蔵タンクの水をサージタンクへ移送開始	26日 10:10 原子炉への淡水注水開始	
	31日 13:03 使用済燃料プールへ注水開始	26日 16:46 中央制御室の照明が点灯	
		29日 16:45 復水貯蔵タンクの水をサージタンクへ移送	
	《4月》	《4月》	《4月》
	3日 12:18 原子炉への注入仮設電動ポンプの電源を電源車から本設電源へ切替	2日 16:25 取水口付近ピットからの水漏れに関し、コンクリート注入による止水作業開始	3日 12:18 原子炉への注入仮設電動ポンプの電源を電源車から本設電源へ切替
	7日 01:31 1号機原子炉格納容器内へ窒素ガス注入を開始	2日 17:10 復水器から復水貯蔵タンクへの水の移送開始	
	10日 09:30 復水器から復水貯蔵タンクへの移送完了	3日 12:18 原子炉への注入仮設電動ポンプの電源を電源車から本設電源へ切替	
	14日 12:20 1、2号機スクリーン前面及び取水口前へのシルトフェンスを設置完了	5日 15:07 2号機取水口付近のピット側面のコンクリート部分からの漏水に関し、取水口付近のピット周辺に穴を開け、凝固剤を注入(6日 05:38分頃、汚染水の海への流出停止を確認)	
		9日 13:10 復水器から復水貯蔵タンクへの移送完了	
		13日 17:04 タービン建屋トレンチにある高レベル滞留水を復水器へ移送完了	13日 13:50 3、4号機スクリーン前面へのシルトフェンスを設置完了
		14日 12:20 1、2号機スクリーン前面及び取水口前へのシルトフェンスを設置完了	
		15日 14:15 2号機スクリーン前面に鉄板を設置完了(本日7枚中4枚)	17日 11:30 遠隔操作ロボットによる建屋内現場状況調査実施
	17日 16:00 遠隔操作ロボットによる建屋内現場状況調査開始	18日 13:42 遠隔操作ロボットによる建屋内現場状況調査を実施	
		19日 10:08 タービン建屋トレンチ内にある滞留水(高線量の滞留水)の集中廃棄物処理施設プロセス建屋への移送開始	
	29日 11:36 遠隔操作ロボットによる建屋内の現場確認を実施。原子炉格納容器から有意な水漏れがないことを確認	30日 14:05 タービン建屋トレンチ内立坑から集中廃棄物処理施設への水の移送再開	

	1号機 ※INES 評価レベル 7	2号機 ※INES 評価レベル 7	3号機 ※INES 評価レベル 7
主要事象等	《5月》	《5月》	《5月》
	2日 12:58 炉心注入ポンプへの警報設置のため、消防ポンプによる炉心注水に一時切替	1日13:35 2号機のトレンチ立杭の閉塞作業を開始2日 10:05 使用済燃料プールに淡水を注入（～11:40）（約55t） 11:00頃 タービン建屋トレンチ滞留水の集中廃棄物処理施設プロセス建屋への移送状況についてパトロールを実施 12:58 炉心注入ポンプへの警報設置のため、消防ポンプによる炉心注水に一時切替	
	5日 11:32 原子炉建屋環境改善作業として局所排風機を敷設し、全4台が起動	6日 09:36 使用済燃料プールに注水（～11:16）（約58t） 7日 09:22 3号機原子炉給水系配管工事に伴い、タービン建屋トレンチ内にある滞留水の集中廃棄物処理施設プロセス建屋への移送を一時中断（～16:02）	8日 12:10 仮設電動ポンプにより使用済燃料プールに注水（～14:10）（約60t）
	11日 08:58 大熊線2号線の復旧による所内電源の一時停止作業に伴う1号機窒素ガス供給設備の一時停止（0850-1558）	10日 13:09 使用済み燃料プールへ水を注入（～14:45）（約56t） 12日 15:20 タービン建屋トレンチ内滞留水の集中廃棄物処理プロセス建屋への移送再開	9日 12:14 使用済み燃料プールへの燃料プール浄化系を用いた注水開始（～15:00）（約80t）
	12日 05:00 原子炉水位（燃料域A）のダウンスケールを確認	14日 13:00 使用済み燃料プールへ水を注入（～14:37）（約56t）	15日 14:33 原子炉へのホウ酸（180kg）の注入を開始
	17日 11:50 1号機原子炉圧力容器への注水流量を10→6 m <sup>3</sup> /hに変更	18日 09:24 原子炉建屋に作業員4名が立ち入り、線量等を測定 13:10 2号機使用済燃料プールへ淡水注入開始（13:15～14:30ヒドラジンをあわせて注水）（～16:40）（約53t）	17日 10:11 原子炉圧力容器への注水流量増加（給水系6→9 m <sup>3</sup> /h、消火系9 m <sup>3</sup> /hのまま、合計18 m <sup>3</sup> /h） 17日 18:04 タービン建屋地下の溜まり水を集中廃棄物処理施設へ移送開始
	20日 15:06 使用済み燃料プールに注水（～16:15）（約60t）	22日 13:02 2号機使用済燃料プールへ淡水注入開始（13:04～14:03ヒドラジンをあわせて注水）（～14:40）（約56t）	18日 16:30 3号機窒素封入現場確認のため3号機原子炉建屋を事前調査（～16:40）
	22日 15:33 使用済み燃料プールに注水（～17:09）（約90t）	26日 10:06 2号機使用済燃料プールへ淡水注入開始（10:10～11:10ヒドラジンをあわせて注水）（～11:36）（約53t）	20日 14:15 3号機原子炉圧力容器への注入量を給水系9→12 m <sup>3</sup> /hに変更 17:39 3号機原子炉圧力容器への注入量を消火系9→8 m <sup>3</sup> /hに変更
	28日 16:47 使用済み燃料プールに注水（～17:00）（約5t）	16:01 タービン建屋立杭にある滞留水の集中廃棄物処理施設への水の移送を停止	23日 11:31 3号機原子炉圧力容器への注入量を消火系6→5 m <sup>3</sup> /hに変更
	29日 11:10 使用済み燃料プールに注水（～15:35）（約168t）	29日 11:33 消火系配管からの注水に加え、給水系配管から原子炉への注水を開始	14:08 3号機原子炉圧力容器への注入量を消火系5→4 m <sup>3</sup> /hに変更
	31日 20:30 1号機原子炉圧力容器への注入量を6.0→5.0 m <sup>3</sup> /hに変更	30日 00:01 消火系配管からの原子炉への注水量を7 m <sup>3</sup> /h→2 m <sup>3</sup> /hに変更 10:38 消火系配管からの原子炉への注水量を2 m <sup>3</sup> /h→1 m <sup>3</sup> /hに変更 12:06 2号機使用済燃料プールへ淡水注入開始（～13:52）（約53t）	17:19 3号機原子炉圧力容器への注入量を消火系4→3 m <sup>3</sup> /hに変更 24日 10:15 使用済み燃料プールへの燃料プール冷却材浄化系による注水開始（～13:35）（約100t）



	1号機 ※INES 評価レベル7	2号機 ※INES 評価レベル7	3号機 ※INES 評価レベル7
主要事象等	<p>15:02 2号機使用済燃料プール循環冷却システムの試運転開始(～16:51)</p> <p>18:05 消火系配管からの原子炉への注水量を1 m<sup>3</sup>/h→0m<sup>3</sup>/hに変更(給水系配管からの注水は5 m<sup>3</sup>/hで変更なし)</p> <p>31日 17:21 2号機使用済燃料プール冷却用に、新たに設置した循環冷却装置を運転開始</p> <p>&lt;6月&gt;</p> <p>3日 12:21 仮設の原子炉圧力計を設置</p> <p>4日 09:57 原子炉注水供給ラインの変更のため、淡水注入を一時停止(～10:02、13:43～13:56)</p> <p>11:00 原子炉圧力測定計器を新設(A、B系の測定結果は採用中止)</p> <p>5日 10:16 使用済み燃料プールに注水(～10:48) (約15t)</p> <p>13日 原子炉注水量5 m<sup>3</sup>/h継続中</p>	<p>15:02 2号機使用済燃料プール循環冷却システムの試運転開始(～16:51)</p> <p>18:05 消火系配管からの原子炉への注水量を1 m<sup>3</sup>/h→0m<sup>3</sup>/hに変更(給水系配管からの注水は5 m<sup>3</sup>/hで変更なし)</p> <p>31日 17:21 2号機使用済燃料プール冷却用に、新たに設置した循環冷却装置を運転開始</p> <p>&lt;6月&gt;</p> <p>1日 6:06 2号機使用済燃料プールへ淡水注入実施(～6:53) (約25t)</p> <p>3日 13:49 2号機原子炉への注水供給ラインのルート変更作業に伴う注水の一時停止(～14:09)</p> <p>18:39 タービン建屋トレンチ立坑からタービン建屋復水器へ滞留水移送(～6/4 12:28)</p> <p>13日 原子炉注水量5 m<sup>3</sup>/h継続中</p>	<p>26日 20:52 3号機原子炉圧力容器への注入量を消火系3→2 m<sup>3</sup>/hに変更</p> <p>27日 20:42 3号機原子炉圧力容器への注入量を消火系2→1 m<sup>3</sup>/hに変更</p> <p>28日 13:28 使用済み燃料プールに注水(～15:08) (約50t)</p> <p>20:54 3号機原子炉圧力容器への注入量を消火系1→0 m<sup>3</sup>/hに変更</p> <p>31日 10:19 3号機原子炉圧力容器への注入量を給水系13.5→12.5 m<sup>3</sup>/hに変更</p> <p>&lt;6月&gt;</p> <p>1日 10:10 3号機原子炉圧力容器への注入量を給水系12.5→11.5 m<sup>3</sup>/hに変更</p> <p>14:34 使用済み燃料プールへの燃料プール冷却材浄化系による注水開始(～15:54) (約40t)</p> <p>2日 12:50 3号機タービン建屋の復水器から同機復水貯蔵タンクへの溜まり水の移送を開始</p> <p>3日 13:16 3号機原子炉への注水供給ラインのルート変更作業に伴う注水の一時停止(～13:32)</p> <p>5日 13:08 使用済み燃料プールへの燃料プール冷却材浄化系による注水開始(～15:14) (約60t)</p> <p>9日 10:44 3号機タービン建屋内溜まり水の復水器への移送終了</p> <p>13:42 使用済み燃料プールへの仮設の電動ポンプによる注水開始(～15:31) (約55 t)</p> <p>11日 15:30 3号機タービン建屋地下の滞留水を集中廃棄物処理施設へ移送(～6/12 17:01)</p> <p>13日 原子炉注水量11.5 m<sup>3</sup>/h継続中</p>

	4号機 ※INES 評価レベル 3	5号機	6号機
主要 事 象 等	《3月》 14日 04:08 使用済燃料プール水温度が 84°Cに上昇 15日 09:38 火災発生 16日 05:45 火災発生 20日 08:21 使用済燃料プールへ注水 開始 29日 11:50 中央制御室の照明が点灯	《3月》 19日 05:00 残留熱除去系ポンプで使用 済燃料プール冷却開始 20日 14:30 冷温停止 22日 19:41 外部電源に切替完了	《3月》 19日 22:14 残留熱除去系海水ポンプで 使用済燃料プール冷却開 始 20日 19:27 冷温停止 22日 19:41 外部電源に切替完了
	《4月》 13日 13:50 3、4号機スクリーン前面 へのシルトフェンスを設 置完了		《4月》 1日 13:40 6号機廃棄物処理施設設備 の床の溜まり水を5号機の 復水器へ移送開始
	《5月》 5日 12:19 コンクリートポンプ車に より使用済み燃料プール に放水（～20:46）（約 270t） 6日 12:38 コンクリートポンプ車に より使用済み燃料プール に放水（～17:51）（約 180t） 7日 14:05 コンクリートポンプ車に より使用済み燃料プール に放水（～17:30）（約 120t） 9日 16:05 コンクリートポンプ車に より使用済み燃料プール に放水（～19:05）（約 100t） 11日 16:07 コンクリートポンプ車に より使用済み燃料プール に放水（～19:38）（約 120t） 13日 16:04 コンクリートポンプ車に より使用済み燃料プール に放水（～19:04）（約 100t） 15日 16:25 コンクリートポンプ車によ り使用済み燃料プールに 放水（～0:00）（約140t） 17日 16:14 コンクリートポンプ車によ り使用済み燃料プールに 放水（約140t） 19日 16:30 コンクリートポンプ車に より使用済み燃料プール に放水（～19:30）（約 100t） 21日 16:00 コンクリートポンプ車に より使用済み燃料プール に放水（～19:56）（約 130t）	《5月》 2日 13:30 起動変圧器（5SB）の受電 試験に伴い、残留熱除去系 ポンプを一時停止 28日 21:14 仮設残留熱除去海水系 （RHRS）ポンプ一台が停止 している事を確認。残留熱 除去系（RHR）ポンプを切 り替えて、炉心冷却と使用 済み燃料プールの冷却を 実施 29日 12:49 予備ポンプへの交換作業 完了し冷却を開始	《5月》 1日 14:00 6号機タービン建屋地下の 溜まり水について、仮設タ ンクへの移送を開始 2日 10:00 6号機タービン建屋地下の 溜まり水について、仮設タ ンクへの移送を開始（～ 16:00）約220トン） 11:03 起動変圧器（5SB）の受電 試験に伴い、残留熱除去系 ポンプを一時停止 13:20 取水路内の調査終了 3日 14:00 6号機タービン建屋地下の 溜まり水について、仮設タ ンクへの移送を開始（～ 17:00）約114トン） 7日 10:00 タービン建屋内の溜まり 水について、仮設タンクへ の移送を実施（～ 15:00）（約200トン） 9日 14:00 タービン建屋内の溜まり 水について、仮設タンクへ の移送を実施（～17:00） 10日 10:00 タービン建屋内の溜まり 水について、仮設タンクへ の移送を実施（～16:00） （約12 0mi） 10日 11:00 原子炉建屋地下の溜まり 水について、廃棄物処理建 屋への移送を実施（～ 12:30）（約10mi） 11日 10:00 タービン建屋内の溜まり 水について、仮設タンクへ の移送を実施（～16:00） （約120mi） 11日 11:00 原子炉建屋地下の溜まり 水について、廃棄物処理建 屋への移送を実施（～ 12:30）（約10mi）

	4号機 ※INES 評価レベル 3	5号機	6号機	
主要 事 象 等	23日 16:00	コンクリートポンプ車により使用済み燃料プールに放水(～19:09) (約100t)	12日 10:00	タービン建屋内の溜まり水について、仮設タンクへの移送を実施(～16:00) (約120m <sup>3</sup> )
	25日 16:36	コンクリートポンプ車により使用済み燃料プールに放水(～20:04) (約121t)	13日 10:00	タービン建屋内溜まり水について、仮設タンクへの移送を実施(～15:00) (約100 t)
	27日 17:05	コンクリートポンプ車により使用済燃料プールに放水(～20:00) (約100t)	11:00	HPCS室トレンチの水をラド地下階へ移送を実施(～13:15) (約3.5t)
	28日 17:56	コンクリートポンプ車により使用済燃料プールに放水(～19:45) (約60t)	14日 10:00	タービン建屋内溜まり水について、仮設タンクへの移送を実施(～15:00) (約100 t)
	<6月>		15日 10:00	タービン建屋内溜まり水について、仮設タンクへの移送を実施(～15:00) (約100 t)
	3日 14:35	コンクリートポンプ車により使用済燃料プールに放水(～21:15) (約210t)	17日 10:00	6号機タービン建屋地下滞留水の仮設タンクへの移送実施(合計80t)
	4日 14:23	コンクリートポンプ車により使用済燃料プールに放水(～19:45) (約180t)	18日 10:00	6号機タービン建屋地下の溜まり水について、仮設タンクへ移送(～14:00) (約80m <sup>3</sup> )
	6日 15:56	コンクリートポンプ車により使用済燃料プールに放水(約90t)	10:30	原子炉建屋地下の溜まり水について、廃棄物処理建屋への移送を実施(～12:30) (約10.5m <sup>3</sup> )
	7日	使用済燃料プール底部の支持構造物設置に向け、鋼製支柱材の搬入及び組み立てを開始	21日 14:00	タービン建屋地下の溜まり水について、仮設タンクへの移送を実施(～18:00) (約45m <sup>3</sup> )
	8日 16:12	コンクリートポンプ車により使用済燃料プールに放水(～19:41) (約120t)	24日 9:00	タービン建屋地下の溜まり水について、仮設タンクへ移送(～19:00) (約201t)
	13日	使用済み燃料プール底部の支持構造物の設置工事(鋼製支柱・荷揚、干渉物の確認・撤去)を実施	25日 9:00	タービン建屋地下の溜まり水について、仮設タンクへ移送を再開(～19:00) (約378m <sup>3</sup> )
			26日 9:00	タービン建屋地下の溜まり水について、仮設タンクへ移送を再開(～19:00) (約378m <sup>3</sup> )
			27日 9:00	タービン建屋地下の溜まり水について、仮設タンクへ移送を再開(～19:00) (約382m <sup>3</sup> )
			28日 9:00	タービン建屋地下の溜まり水について、仮設タンクへの移送を実施(～19:00) (約382m <sup>3</sup> )
			10:20	原子炉建屋地下の溜まり水HPCS D/G移送(約12m <sup>3</sup> )

	4号機 ※INES 評価レベル 3	5号機	6号機
主要事象等			<p>29日 9:00 タービン建屋地下の溜まり水について、仮設タンクへ移送を実施（～19:00）（約378m<sup>3</sup>）</p> <p>30日 10:00 タービン建屋地下の溜まり水について、仮設タンクへ移送実施（～17:30）</p> <p>&lt;6月&gt;</p> <p>2日 14:00 タービン建屋地下の溜まり水について、仮設タンクへ連続移送を実施（～6/8 18:00）（6/5 14:00～14:45 一時停止）</p> <p>9日 09:00 6号機タービン建屋内溜まり水の仮設タンクへの移送実施（～18:00）</p> <p>11日 10:00 6号機タービン建屋地下の溜まり水について、仮設タンクへの移送実施（～15:00）</p> <p>12日 10:00 6号機タービン建屋地下の溜まり水について、仮設タンクへの移送実施（～15:00）</p> <p>13日 10:00 6号機タービン建屋地下の溜まり水について、仮設タンクへの移送実施（～16:00）</p>

## 2 避難指示等

- 3月11日 21:23 総理指示：福島第一発電所の半径 3 km圏内の避難、3 km～10 km圏内の屋内退避
- 3月12日 05:44 総理指示：福島第一発電所の半径 10 km圏内の避難
- 3月12日 07:45 総理指示：福島第二発電所の半径 3 km圏内の避難、3 km～10 km圏内の屋内退避
- 3月12日 17:39 総理指示：福島第二発電所の半径 10 km圏内の避難
- 3月12日 18:25 総理指示：福島第一発電所の半径 20 km圏内の避難
- 3月15日 11:06 総理指示：福島第一発電所の半径 20～30 km圏内の屋内退避
- 3月25日 11:46 官房長官会見：屋内退避区域内住民の自主避難の積極的な促進
- 4月11日 16:09 官房長官会見：「計画的避難区域」の設定  
 国際放射線防護委員会（ICRP）と国際原子力機関（IAEA）の緊急時被ばく状況における放射線防護の基準値（年間 20～100mSv）を考慮して、事故発生から 1 年の期間内に積算線量が 20mSv に達するおそれのある区域を「計画的避難区域」とする。  
 「緊急時避難準備区域」の設定  
 現在の「屋内退避区域」で「計画的避難区域」に該当する区域以外の区域を「緊急時避難準備区域」とする。

- 4月11日 17:25 総理指示：被災状況、特に原発の状況の確認に全力を挙げるとともに、人命救助に全力を挙げること。
- 4月12日 14:13 総理指示：人命救助に全力を挙げるとともに、被災状況、特に原発の状況の確認に全力を挙げること。
- 4月21日 11:00 総理指示：福島第一発電所の半径20km圏内の「警戒区域」の設定  
福島第二発電所周辺の避難区域を半径8km圏内へ変更
- 4月22日 09:44 総理指示：福島第一発電所の半径20～30km圏内の屋内退避を解除し、計画的避難区域及び緊急時避難準備区域を設定

### 3 宮城県沖を震源とする地震（4月7日23時32分頃発生）に際しての原子力発電所等の状況

- ・東通発電所（定期検査のため停止中）では、外部電源が遮断し、非常用ディーゼル発電機による給電を実施（4月8日3時30分復旧）  
原子炉建屋地下1階の非常用ディーゼル発電機（B）燃料循環ポンプ付近に軽油約200リットルが漏えい（4月9日7時00分復旧）  
冷却等に影響なし（4月9日12時00分時点）
- ・六ヶ所再処理事業所では、外部電源が遮断し、非常用ディーゼル発電機による給電を実施（安全上必要な施設について外部電源復旧4月8日14時58分）冷却等に影響なし（4月9日10時15分時点）
- ・福島第一原子力発電所及び第二原子力発電所ともに異常なし（4月8日18時40分時点）
- ・女川原子力発電所（1～3号機冷温停止中）では、外部電源が一部遮断したが冷却等に影響なし。地震の揺れにより使用済み燃料プールから床面に水が溢れた（対応済み）（4月9日12時00分時点）
- ・日本原子力発電株式会社東海第二発電所について異常なし（4月8日1時00分時点）